

## News Release

2014年12月25日  
株式会社野村総合研究所

# 東京第一データセンターが、M&O 認証を日本で初めて取得

## ～グローバルなデータセンター運営基準を満たす～

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：嶋本 正、以下「NRI」）が保有する東京第一データセンターが、2014年12月5日、米国の民間団体 Uptime Institute<sup>\*1</sup> が定めたデータセンターの運営基準 Management and Operations（以下、「M&O」）の認証を取得しました。これは、日本で初めての認定となります。

企業が自社の情報システムを運用するためにデータセンターを選択する際、建物の耐震性など、ファシリティ（設備）の評価を重要視する傾向があります。しかし、ファシリティは業界基準を満たしていても、運用面に問題があり、期待したレベルのサービスが提供されない、ということが起こりがちです。そのため、データセンターにおけるファシリティ運用品質を客観的に評価できる基準が求められていました。

それに応えるため、2011年に、米国の Uptime Institute がファシリティ運用とデータセンター管理に関する M&O 基準を設けました。現在では、米国・欧州におけるデータセンター事業者が、他社との差別化のため、積極的に M&O 基準の認証取得を進めています。

この認証は、日々のデータセンターのファシリティの運営に対して、「組織対応」「維持管理計画」「スタッフトレーニング」「運営ポリシー」「負荷管理」などさまざまな観点から評価がおこなわれます。今回、NRI の東京第一データセンターは、極めて高得点で認証を取得しました。当社のデータセンター運用の能力が、グローバル基準に照らして高い、と評価されたものと言えます。

Uptime Institute が提示した評価結果における主な指摘事項は、以下の通りです。

- 資格保持者、もしくは教育を受けた高い技術力を持つスタッフで構成された体制によって、ファシリティの巡回点検やモニタリングなどがおこなわれており、総合的に見て、非常にレベルの高いオペレーションがおこなわれている。
- 高い技術力を有したスタッフがローテーション方式で配置されており、不確実な事象が発生した場合でも、的確に対応できる体制となっている。
- 詳細に定義されたメンテナンスに関する手順書が準備されており、かつメンテナンスが計画通り実施され、ファシリティの信頼性を最大限に引き出している。

NRIは、今後もデータセンター運用の品質を向上させる努力を続け、企業のコンピュータシステムの安全・安心な稼働を確保します。



M&O 基準の認証マーク（Uptime Institute が発行）

\*1 Uptime Institute（アップタイム・インスティテュート）：

データセンターのパフォーマンスと効率性向上の支援を目的として、データセンターの設計、構築、運用に関する研究、教育、およびコンサルティングサービスを提供する民間団体。世界的に著名な第三者機関として、データセンター設備の TIER 基準の作成や、M&O 認証を運営し、世界各地の拠点（米国、メキシコ、コスタリカ、ブラジル、イギリス、スペイン、UAE、ロシア、台湾、シンガポール、マレーシア）を通じてグローバルに活動を展開している。

---

**【ニュースリリースに関するお問い合わせ】**

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 十河、川越  
TEL：03-6270-8100 E-mail：kouhou@nri.co.jp

**【データセンターに関するお問い合わせ】**

株式会社野村総合研究所 データセンターマネジメント本部  
運用サポート部 田代、佐野  
TEL：045-336-8916 E-mail：[mo-toiwase@nri.co.jp](mailto:mo-toiwase@nri.co.jp)

---

## 【ご参考】

●M&O 認証における主な評価項目は、以下の通りである。

M&O評価分類	主な評価項目
スタッフと組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データセンター運営に必要な職務・職責が明確で、体制が整備されていること。</li> <li>・職務・職責に必要な「資格」が定義され、その一覧や教育計画が整備されていること。</li> <li>・事故や設備障害時の連絡ルートが整備され、必要な体制が確保できること</li> </ul>
保守・メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防保守・設備故障時のオペレーション手順が整備されていること。</li> <li>・変更管理とその履歴が保管されていること。</li> <li>・予防保守が計画的に実施されていること。また、その記録が保管されていること。</li> <li>・検査点検機器、テスト機器のメンテナンスが実施されていること。</li> <li>・設備機器のライフサイクルが管理され、適時、更改・保守されていること。</li> <li>・不具合発生時の原因分析・対策立案をおこなう仕組みが整備されていること。</li> <li>・コンピュータ室にゴミや可燃物等が放置されないよう、管理されていること。</li> </ul>
教育・トレーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員・スタッフ・ベンダーを含めた、定期的な教育・訓練がおこなわれていること。また、その記録が保管されていること。</li> <li>・OJTプログラムが用意され、新規に運営に関わる要員に適用されていること。</li> </ul>
データセンター運営計画とマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備投資計画があり、予算と実績の管理がおこなわれていること。</li> <li>・IT部門と連携し、コンピュータールームの収容プランが機能していること。</li> <li>・設備運営に必要な文書が整備され、常に更新され、利用可能な状態になっていること。</li> <li>・IT機器の設置や撤去の情報が管理され、電力・スペース・空調のキャパシティが予測・管理されていること</li> </ul>
データセンター運営の状態・状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要設備の閾値が設定・監視されていること</li> <li>・設定値の妥当性やポリシーが明確であること。</li> <li>・設定値変更や操作に関する権限が明確であり、管理されていること</li> </ul>

●M&O認証を取得済みのデータセンターは、以下の通りである。（2014年12月現在）

北米：Visa, Inc.（金融）、Morgan Stanley（金融）、Equinix（ITサービス）

Fortune（ITサービス）、FORTRUST（ITサービス）、Progressive Insurance（保険）

Ideas Gloris S.A.（ITサービス）

欧州：Colt Technology Services（ITサービス）、Morgan Stanley（金融）

Interxion（ITサービス）、Fujitsu（製造）、ING Facility Management（ITサービス）

アジア：Baidu（ITサービス）、Morgan Stanley AsiaLtd.（金融）

南アフリカ：MTN SA (PTY) LTD（通信）

オセアニア：Datacom（ITサービス）

※1 社あるいは1か所で複数データセンターを保有する企業があり、現在全世界でNRIを含めて30データセンターがM&O認証を取得済み（括弧内は業種）。